

岡谷市議会 社会委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成25年10月7日（月）～10日（木）

2. 調査事項（視察先）
 - (1) 保育行政について (高知県 須崎市)

 - (2) 環境モデル都市としての取り組みについて (高知県 梶原町)

 - (3) 市立八幡浜総合病院改築事業について (愛媛県 八幡浜市)

 - (4) バイオマス利活用による資源循環型まちづくりについて (愛媛県 東温市)

3. 視察参加委員

委員長	竹村安弘
副委員長	小松 壮
委員	浜 幸平
委員	今井秀実
委員	田中 肇
委員	齋藤美恵子

【視察地報告】

1. 調査事項

保育行政について（高知県 須崎市）

人口：約23,600人 面積：約135km²

（視察事項）

須崎市には、市立保育園3園、社会福祉法人須崎市保育協会が運営する私立保育園7園の合計10園が存在する。

視察した須崎保育園は、公立と私立の保育園を統合し、小学校の縮小による不要校舎解体跡地に須崎市が新築移転した公設民営の保育園で、平成24年6月に開設している。

立地の好条件により津波発生時には避難場所に指定された裏山への避難が可能となり、隣接する小学校との避難時連絡・連携等も可能となった。

須崎市では中学校区単位での、保育園、小学校、中学校の職員交流が積極的に行われており、研究授業の他、年1回の全職員交流もある。さらに、教職員による地域体験学習や、地域ぐるみの研究発表会、小学校5年生による保育園体験学習、高校生の保健授業としての保育体験学習を行っている。

2. 視察日時 平成25年10月7日（月）15：00～16：00

3. 参加者所感

- 保育園の統合が大きな反対運動もなく行われたということに驚いた。行政、保育協会、保護者、市民の地域に密着した取り組みが、不断に行われてきた結果かと感じた。
- 地域性が指導方針か、何よりも子どもたちの元気の良さが印象的であった。
- 小学校に隣接して作られたことにより、災害時の同時・同一場所への避難が可能となり、園児・生徒・保護者の安心に大きく寄与すると感じた。
- 交流研修が密に行われていることは素晴らしい。
- 同一敷地内に小学校、保育園が存在するメリットは大きいですが、其々にグラウンドを保有するなど、それなりの敷地確保が必要で、岡谷市では容易ではないと感じた。
- 岡谷市においても保育園整備事業が行われているが、小学校との連携、さらには小中一貫校による運営など、少子化に備えた体制作りが急務である。
- 中学校区単位で保育園及び小中学校の職員交流が意識的に取り組まれていることは素晴らしい。岡谷市でも何らかの形で実現していくことが望まれる。
- 地域ぐるみの取り組みが素晴らしい。
- 須崎市においては保育協会の歴史と実績から統廃合による公設民営を選択しているが、岡谷に置き換えた場合、そうした受け皿に不安があり、公設公営が望ましい。

【視察地報告】

1. 調査事項

環境モデル都市としての取り組みについて（高知県 梶原町）

人口：約3,800人 面積：約237km²

（視察事項）

梶原町は「環境モデル都市」「健康文化都市」として全国に知られ、人口も微増傾向にある。

森と水と風しかない町だから、これを使うしかないという発想の下、平成7年に「鎮守の森づくり条例」を定め、平成12年には「森林づくり基本条例」を制定し、森林の持つ多様な機能に注目し、森林文化社会の形成を図り、「環境モデル都市」の考えを確立した。

徹底して自然エネルギーを利用しており、小水力発電による電力は、昼間は中学校、夜間は街路灯に使用しているほか、木質バイオマス地域循環利用の取り組みとして木質ペレットの生産、廃油利用によるバイオディーゼル燃料の精製、地中熱利用、生し尿のおがくず処理など、環境モデル都市の名に恥じない多くの取り組みがなされている。

2. 視察日時 平成25年10月8日（火） 10:00～12:00

3. 参加者所感

- 自然以外には何もないことを歴代町長、町職員、議会議員、町民共通の認識とし、梶原人の誇りをもって、町づくりに邁進している姿に感動した。
- 一つの事をやろうと決め、とことんやりぬく梶原町の姿に感動した。
- 環境モデル都市、健康文化の里として運営されている原動力はどこか、議会の活動はどのようなものかに関心があったが、地域全体が恵まれた自然に囲まれていることに気付いた、住民の力ではないかと考える。
- 森・水・風・光・土の全ての自然資源を有効活用しようとする理念がしっかりしており、実際に現実のものとして結実していることはすごいと圧倒された。
- 全てがうまく回っている。行政のチャレンジしようとする姿勢は素晴らしい。果敢に取り組み、それが良い結果として成果が出る。循環型の行政と言える。
- 移住したいとして、人口が増加しているとの事だが納得できる気がする。
3,000人余りの小さな町だが、きらりと光っている。
- 梶原町イコール環境モデル都市、というブランドを全国に響かせるまでにした行政の姿勢は見習うべきである。
- 自然エネルギーは一定の条件を必要とするため、実施しようとしても出来ないことも多いと思うが、諏訪湖、天竜川、日照時間の長い地域特性など、岡谷市の優位性もあり、ブランドイメージ構築の視点もあわせ、力を入れるべきと考える。

【視察地報告】

1. 調査事項

市立八幡浜総合病院改築事業について（愛媛県 八幡浜市）

人口：約36,300人 面積：約133km²

（視察事項）

市立八幡浜総合病院は老朽化に伴い、現在地とは別の場所での建て替え工事が検討されてきたが、東日本大震災による津波被害の甚大さを踏まえ、当初予定地（海拔2m）の建設を断念し、現病院敷地内での改築とし平成24年から平成28年の改築スケジュールに基づき、一部解体と一部建築を並行して進めている。設計施工は一括発注で、事業費は約52億3千万円である。

新病院は延床面積17,283m²、地上6階の免震構造で、病床数は256床、伊方原発に11kmと近いため、別棟に放射線被ばく除去施設を設ける。

現在の病床数は312床、常勤医は21名であるが、医師不足のため、土曜日の緊急対応はできない状態である。また、産婦人科医が確保できないため産婦人科はなく、人口減に拍車がかかるのではと危惧している。

2. 視察日時 平成25年10月9日（水）10:00～12:00

3. 参加者所感

- 患者とスタッフの動線に気を配り、集約配置された診療機能や目的別アプローチの確保による混雑解消、複数の駐車場配置など、岡谷市民病院においても取り入れるべき点がある。
- 病院改築事業の審査委員会に工学院大学建築学部教授と公認会計士で総務省公設企業アドバイザーが加わっていることは、大事なことではないかと思う。
- 岡谷市においても、配置の問題、運用上の問題、動線利活用などについては、今後考えられる点があると思うが、広い意味での環境づくりには配慮が必要と考える。
- 現在地での建て替えのため、工期を短縮し、経費を削減するため、一括発注で行ったことは理解できる。今後、岡谷市において類似の条件下で建設が必要となった際には、一つの手法として頭に入れておくことも有意義であると感じた。
- 医師確保の困難さは愛媛県も長野県も同様である。国による適正な対応が求められると改めて感じた。
- 一括発注と分離発注とではどうしてもコストに差が出ると感じた。見栄えを優先しがちな分離発注は高上りになりやすいとのことである。
- 岡谷市民病院とあまり差のない規模の病院と思われるが、八幡浜との事業費の差は看過できない。自分なりの検証をしたい。

【視察地報告】

1. 調査事項

バイオマス利活用による資源循環型まちづくりについて（愛媛県 東温市）

人口：約34,200人 面積：約211km²

（視察事項）

東温市は、環境基本計画、次世代エネルギーパーク計画等により、循環型まちづくりが進められ、そのイメージが出来上がっている。

J-VER 制度を活用し、地場産給食の推進や食育推進のプロジェクトを実施している。J-VER 制度は、環境省が推進する温室効果ガス排出削減・吸収量をオフセット・クレジット（J-VER）として認証・発行する事業であるが、このクレジットは市場での流通が可能であり、売却し収益とすることができ、東温市ではこの収益を「ふるさと基金」に積み立て、食育事業などに充てている。

バイオマスを利用した給食センターでは、施設で出る食用廃油に公民館、保育園等からの食用廃油の回収分も合わせ、バイオディーゼル燃料とし、給食配送車の燃料に使用している。

2. 視察日時 平成25年10月10日（木） 9:00～11:00

3. 参加者所感

- バイオマスの利活用を進める上で、地元に関連企業が存在し、協力を得られるという非常に恵まれた環境である。
- J-VER 制度の活用、エネルギービジョン、バイオマスビジョン、省エネルギービジョン等、環境関連計画を策定推進する努力は並大抵のものではないと感じた。
- 多くの事業に加え、「とうおん子ども科学&環境会議」を立ち上げ、次世代の育成にも取り組んでおり、これらの取り組みが評価され、「地域づくり総務大臣賞受賞」に表れていると感心した。
- 愛媛大学医学部を誘致した効果は非常に大きなものがあると思われる。
- 岡谷市での取り組みには大変難しい面があると思うが、将来のために情報収集は必要であり、部分的にでも取り入れていきたいと考える。
- 岡谷市も同様な大きな取り組みが出来る要素は多数あると思うので、是非、プロジェクトチームを作り、取り組むべきと思う。各部各課の縦割りではなく岡谷市全体の大きな目標を掲げた中で、個々の取り組みがされていけば良いと思う。